

令和元年 湖西市議会 6月定例会

市長あいさつ

令和元年6月4日

皆様、おはようございます。

令和元年6月、市議会の皆様のメンバーも代わり、気持ちも新たに本日から湖西市議会定例会が開催されるに当たりまして、ごあいさつを申し上げます。

6月に入り、初夏というより、既に真夏のような日差しの日もある中、市内の幼稚園、小・中学校では、春の運動会や、先週末には浜名湖、浜名川クリーン作戦が、多くのボランティアの皆様の参加をいただいて行われました。子どもたちの笑顔や歓声、また、浜名湖などの美しい自然環境が将来に亘って持続するようなまちづくりを行っていかねばならないと、決意を新たにしたところです。

<職住近接>

さて、今年の湖西市のキーワード、きっとこれは、今年だけでなく、当面の継続的な課題としまして、何といたっても、人口減少対策、少子化・高齢化対策としての「職住近接」、昼夜間人口の差の解消です。

湖西市に住んで、働いていただくための政策手段として、

① 子育て・教育の支援、充実

② 産業の振興（雇用の増加）

② 観光・シティプロモーション

を三本柱に、もちろん防災・減災対策や福祉、湖西病院の経営改善をはじめとする医療の充実、公共交通・環境やインフラ整備など、湖西市の10年後、20年後、50年後を見据えて、このまちが持続可能な発展を続けるよう、常に危機感を持ちつつ、政策を着実に、前に進めていきたいと考えています。

先月、5月20日には、静岡経済研究所の山田調査研究部長をお招きして、「地域所得力からみた湖西市の現状と課題」というテーマでご講演をいただき、県内35市町中、労働生産性が1位でありながら、市外からの通勤者が多いため、「生み出した所得が、半分以上市外へ流出している」ということを数字でも改めて認識したところです。また、しんきん経済研究所のレポートにおきましても同様の分析がされており、更に湖西市は男女比において、男性の数が多く、更に有配偶率が低い、女性の数が少なく有配偶率が高い。それにより、女性が楽しめる、来たくなるような職場や施設が定住の促進には必要と、分析されています。ちなみに、直近の5月末の湖西市の人口は、59,950人、

うち男性が30,836人で51.4%、
女性が29,114人で48.5%となっています。

この講演会等を契機とし、市役所の部内におきましては、移住・定住の促進を図るための施策につき、情報共有・連絡調整を図り、総合的かつ横断的に推進していく「職住近接推進会議」を立ち上げ、5月30日に第1回の会議を開催しました。今後はこの会議を中心として、市内企業と連携した新たな奨学金制度や女性活躍の推進など、短期・中長期的な「職住近接」の施策を具現化し、湖西市への定住促進に繋げていきたいと考えています。

<豚コレラ、臭気対策>

さて、足下においては、近隣の愛知県や岐阜県において、豚コレラがこれまでに24例発生しております。湖西市は豚の飼育頭数が2万7千頭と、静岡県内一であり、引き続き畜産事業者やJAなど関係者一丸となって、消毒の徹底や野生イノシシなどの侵入防止、さらにはアフリカ豚コレラの防疫措置についても、万全を期してまいります。

また、畜産臭気対策も、職住近接における重要なファクターであることから、国や県の平成30年度補正予算においても、臭気指数の測定や豚舎の密閉化、脱臭フィルタなど、新たな対策を実施していただきました。また、今年後、令和元年度予算におきましても、例えば県においては、養豚事業者に限定した脱臭シートへの助成など、まさに湖西市のためともいえる助成金を新たに作っていただきました。従来からの市の施策と合わせ、引き続き国や県と連携しながら、令和の時代においても、臭気対策の加速による、職住近接を促進していきます。

<ラグビーワールドカップ・オリパラ>

続きまして、スポーツ関連では、いよいよ世界各国が注目しております、ラグビーワールドカップが、エコパスタジアムを含む全国各地で9月から開催されます。加えて、来年の2020年の7月には浜名湖において、スポーツフィッシングの「浜名湖キューバ・ヘミングウェイカップ」が、そして東京で、オリンピック・パラリンピックが開催されます。

6月1日には、聖火リレーのルート概要の公表が解禁となり、来年、2020年6月24日、湖西市が、静岡県における聖火リレーのスタート地点となる

ことが公表されました。1964年以来、56年ぶりに、昭和から平成、令和と2つの元号を跨いで、このまちを聖火が駆け抜けます。ルートの詳細やランナーの公募はこれからですが、湖西市の顔となる場所を走り、湖西市・静岡県魅力を国内外に発信できるような聖火リレーとなるよう、準備に万全を期していきたいと思ひます。

また、スペインの卓球代表ナショナルチームが今年も湖西市で事前合宿を行う予定です。8月20日から9月1日までアメニティプラザを会場に、今年にはデンソー女子卓球部に加えて、日本リーグ1部所属の愛知工業大学にも練習に参加いただくほか、子どもたちへの卓球教室や親善試合も予定しており、「おいでん祭」にも参加していただける予定となっています。市民の皆様には、オリンピック・パラリンピックを身近に感じていただき、国際交流・スポーツ振興につながればと思ひています。

<市民交流複合施設>

さて、まちのにぎわい、振興といえは欠かせない、昔の市民会館に替わる「市民交流複合施設」につきましては、昨年度平成30年度に「市民会議」の皆様からご提案いただきました報告書を基に、「子どもからお年寄りまで、多くの方々が集まり、利用しやすい施設」として、今後10年以内、2028年度までの完成を目指し、具体的な構想と設計に向けて、自治会や文化協会、商工会など、関係団体との意見交換を先月から始めたところでは、今年秋ごろには意見を集約したいと思ひており、昔の市民会館のような文化ホールや会議室に加え、防災センターや図書館、市庁舎、市の魅力の発信拠点といった、市の顔となり、世代を超えて、多くの方々に訪れていただけるような複合的な交流拠点となるよう、意見交換を重ね、具体的な構想や設計に繋げていきたいと思ひます。

<浜名湖西岸土地区画整理事業等>

続きまして、次世代産業の核ともなる「浜名湖西岸土地区画整理事業」については、プライムアースEVエネルギーにおける、4年後の令和5年7月頃の一部操業開始予定に合わせ、今年度、令和元年度中に市街化区域に編入できるよう所定の手続きを進めてまいります。

また、そのアクセス道路にもなる「都市計画道路大倉戸茶屋松線」につつま

しては、市議会の有志はじめ、関係者の皆様の熱意ある活動のおかげで、国からも多額の助成を認めていただいております。引き続き用地の取得や建物の移転補償等を行うとともに、用地取得が完了した区間における建設工事にも順次着手してまいります。

<インフラ整備、浜松三ヶ日・豊橋道路（仮称）>

インフラ整備関係では、市内における下水道の整備計画の見直しに伴い、いわゆる「合特法」の趣旨に沿った代替業務の見直しに関する審議会による議論を開始いたしました。時代の流れに合わせ、有識者の皆様による客観的な議論をいただきつつ、来年度からの見直しを予定しております。

また、道路においては、湖西市の防災・経済・観光に大きな意味を持つ「浜松三ヶ日・豊橋道路」につきましては、5月30日に国土交通省から、ルートや構造の検討にあたり、地域の皆様にご意見を聴取すべく、6月下旬頃を目途としたアンケート調査の実施について、公表があったところです。今後、市役所だより等でも周知させていただきますが、企業活動における物流機能の強化、災害時における避難・救援物資輸送機能の強化などに加え、湖西市としては、インターチェンジをぜひ市内に、できれば複数設置していただき、インターチェンジを核として、その周辺の宅地造成や商業・物流施設、お店の誘致などの土地の有効活用を図り、地域を活性化するとともに、昼夜間人口の差の解消を実現していきたいと思っております。

<トピック>

次に、文化振興につきまして、先週末、6月1日に行われました「新居関所おんなあらためのがやの女 改之長屋復元工事見学会」には、約100名の家族連れの方々にご参加、体験をいただき、工事家屋のほか、たけくぎ竹くぎの打ち込みやつちかべ土壁作り、屋根材となる約4万枚の「こけら板いた」にも、様々な思いをご記入いただきました。これらは数十年後にはタイムカプセル的に取り出していただけるほか、今年度中に工事が完成するのに合わせ、新たに「xR」など様々なリアリティ体験といったソフト面の充実により、リピーターなど、より多くの方々に関所に訪れていた

だき、文化の香るまちづくりの実現を期待しているところです。

<結び>

さて、本定例会に提案させていただきます案件は、条例の制定や一部改正、補正予算等に関する5件でございます。

後ほどご提案させていただきますので、よろしくご審議を賜りますよう、お願い申し上げます。

挨拶というよりも、年明けの施政方針のように、少し長くなりましたが、市議会の皆様の構成も変わりましたので、改めてまちづくりの基本方針につき、ご説明をさせていただきました。

繰り返しになりますが、「職住近接」により、10年後、20年後、50年後にも、湖西市が持続可能な発展を続け、子どもたちが住んで働きたいと思えるまちであるよう、全力投球してまいります。引き続き皆様のご支援やご議論をお願い申し上げます。

以上で、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

(以上)